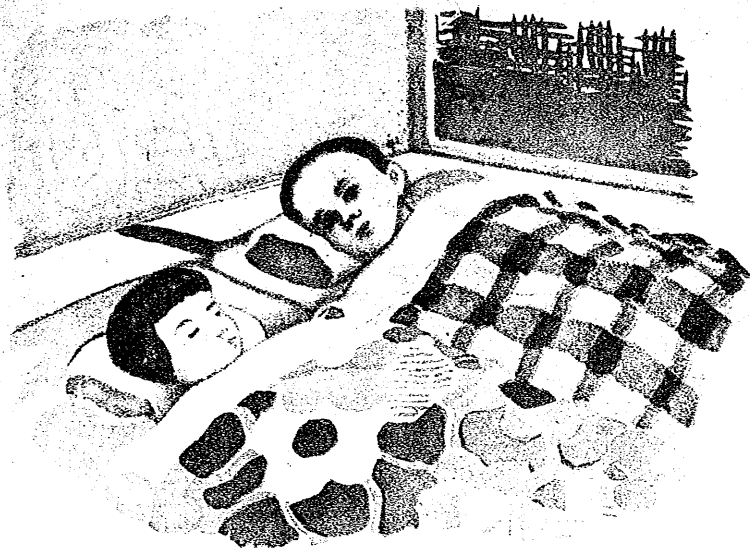




D6

309





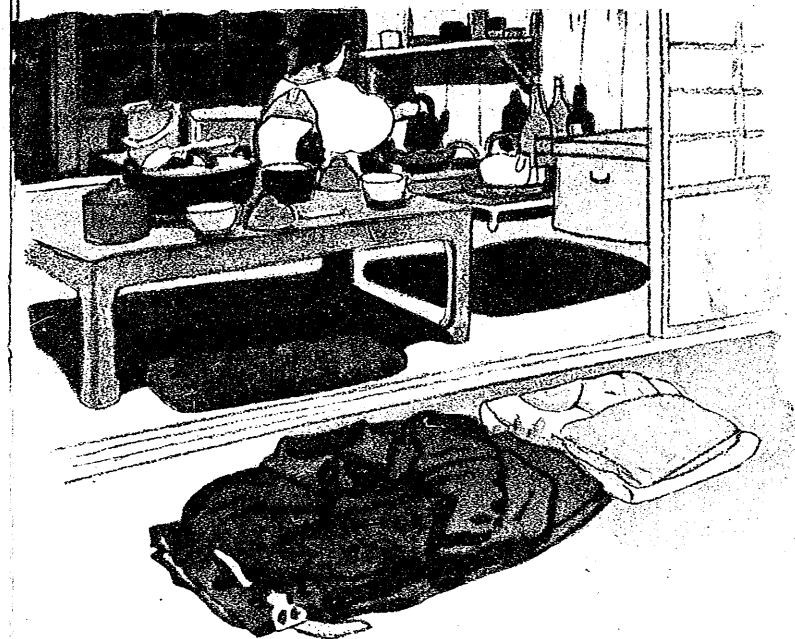
ボン、ボン、ボン、
 とけいが ここのつ うちました。
 まさおは、ねどこで 大きな 目を
 ぱちぱち させて います。
 あしたは、いなかの おじさんの
 うちへ いくので、うれしくて、
 なかなか ねむれないのです。
 いもうどの みちこは、となりで
 もう すやすやと ねむって います。



ジャン、ジャン、ジャン。
 あっ はんしょうです。
 しょうぼうじどうしゃが とんで いきます。
 まさおは びっくりして とびおきました。

國立教育研究所
 付属教育図書館

「まさお、だいじょうぶだよ。
 しんばいしないで、はやく
 おやすみ。」
 まどから そとを みて いた
 おとうさんの こえに、
 まさおは ほっとして、
 ねどこに もどりました。



「まさお、まさお。おきるんですよ。」

まさおは げんきよく ところを
でました。

いそがしそうな おかあさんの
かげが、

しようにに ゆれて います。

まくらもとには、ようふくが

きちんと そろえて ありました。

ごはんの したくも できて
います。

「おかあさん、いって まいます。」
「きをつけてね。」

そとは、

まだ まつくらです。

こうばんの まえには、

けいかんが たって います。

「ごくろうさま。」

「ずいぶん はやい

おでかけですね。」



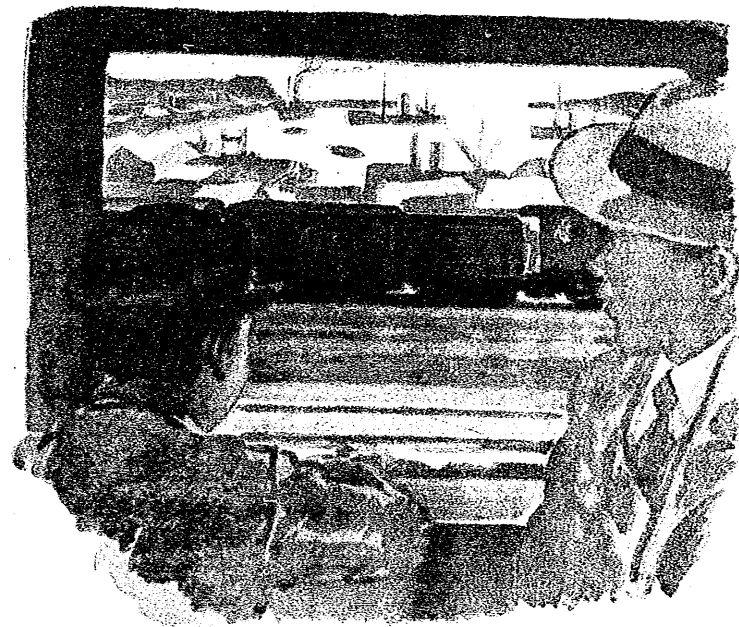
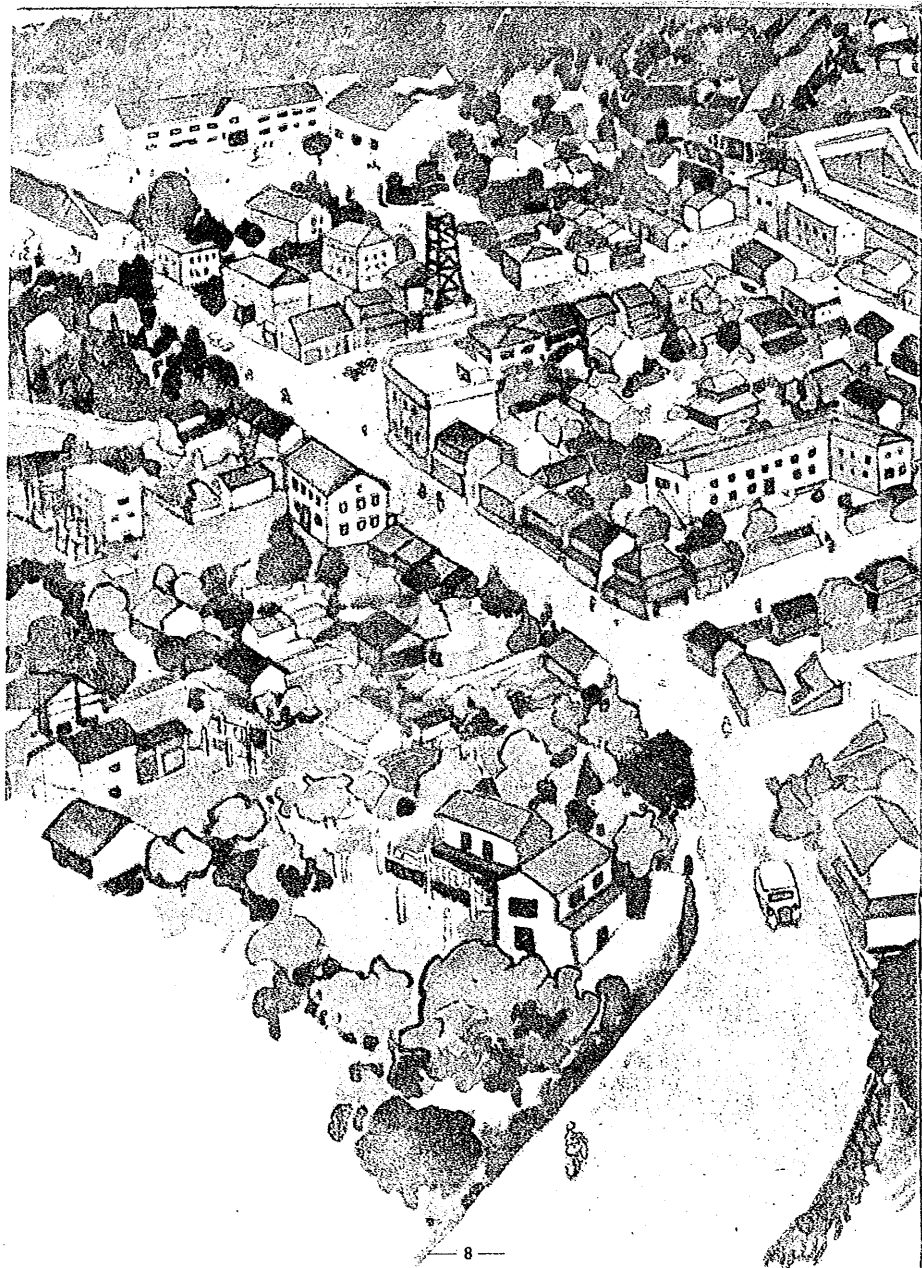
しんぶんやさんが はしって きました。
 かたてに もった しんぶんの
 たばから 一まい ひきぬいて、
 しゅつと しごいて なげこみました。
 またすぐ はしって いきます。
 やさいをつんだ トラックも
 はしって きます。
 にばしゃも ガラガラ
 とおって いきます。
 いつの まにか きりが はれて、
 まちかどが、
 はっきり みえて きました。



「でんしゃで しゅうてんまで いって、それから さきは きしゃに のろう。」
 おとうさんが おっしゃいました。



えきに つきました。
 えきの 人たちは、
 げんきよく
 はたらいて います。
 まちの いえいえでは、
 あさの したくが
 はじまって、けむりが
 しずかにのぼって います。
 かぜも ない
 よい おてんきです。



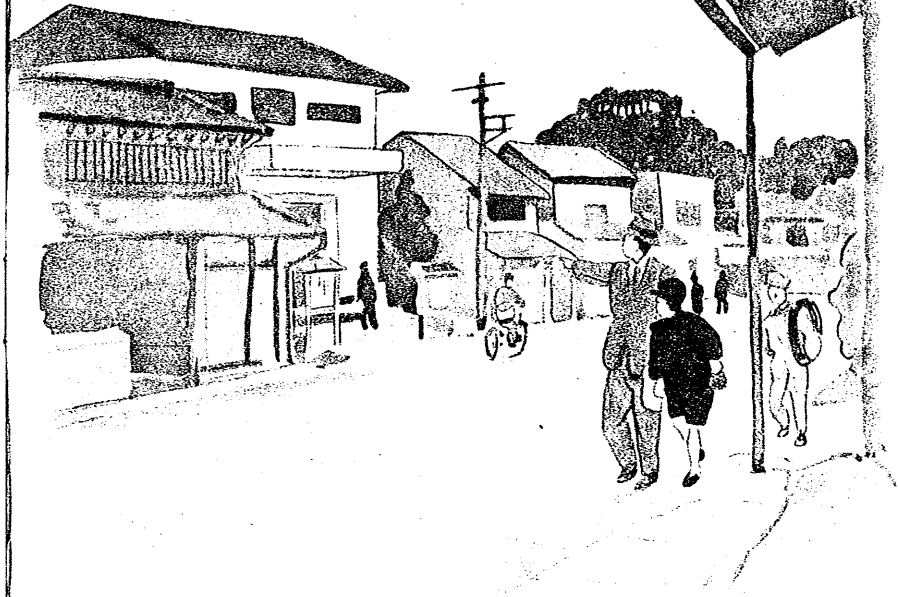
シュツシュツ ポツポ
 シュツシュツ ポツポ
 きしゃは ぼくらを はこんでいく。
 まちを うしろに、たんぼや 川や、
 のはらが ひろびろ みえてくる。
 きしゃは どこまで いくんだろ。
 シュツシュツ ポツポ
 シュツシュツ ポツポ
 ながく ならんだ まつころな
 かもつれっしゃも おいこした。
 きしゃは はやいな うれしいな。
 むこうに うみが みえて きた。



おとうさんに あいさつして
とおる 人が ありました。

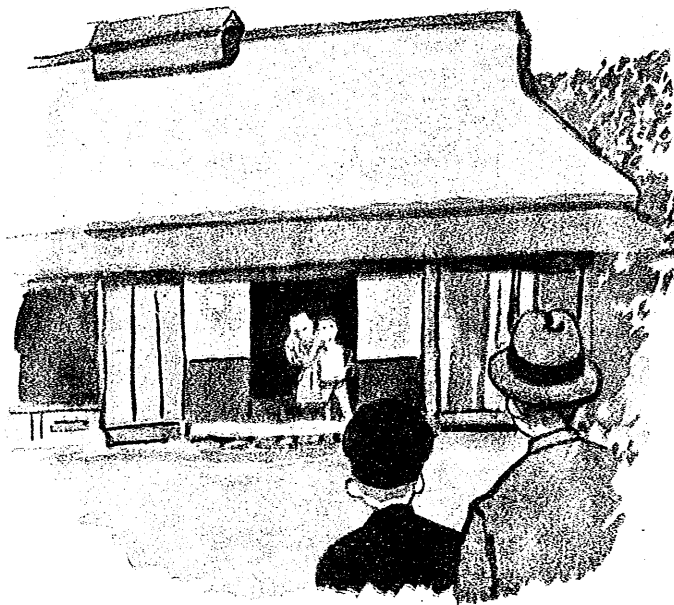
「この 川 きれいだなあ。
はしも りっぱだね。」
「ここは そめものこうばだよ。」
「やあ、いとが きれいだなあ。」

さかを くだると おじさんの むらです。
どこからか、きくのかおりが
して きます。



トンネルを ぬけ、
てつきょうを わたって、
もみじの 山に かこまれた
小さな えきに つきました。
まさおは きしやを おりて、
つめたい くうきを
むねいっぱいに すいこみました。
「まさお、ごらん。あれが やくば
だよ。」
「おみせが ずいぶん ならんでる
なあ。」
「ゆうびんきよくや けいさつも
あるね。」

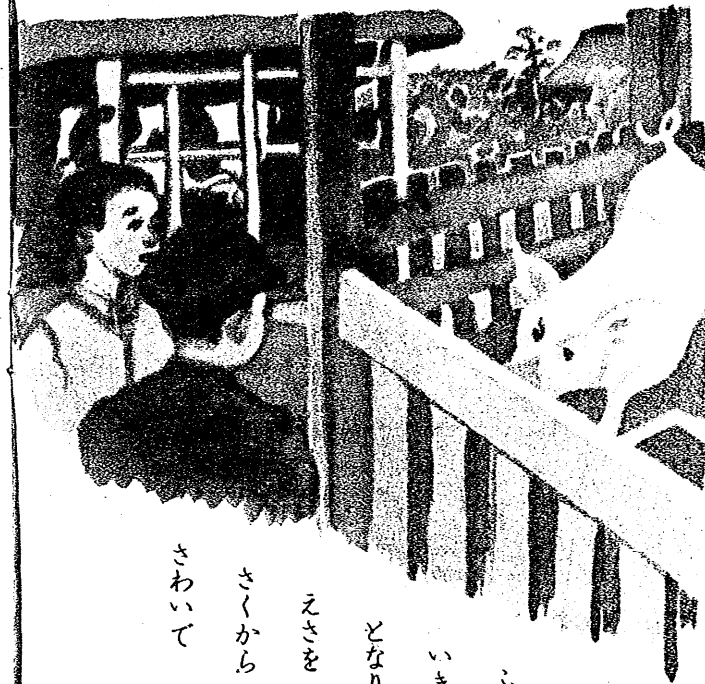
「いまの人は、ぶんぼうぐやおじさんだよ。学校のまえの。」
 ふたりは、学校のまえにきました。
 「やあ、みんなやきゅうをしてるよ。」
 おとうさん、この学校、うんどうばが
 ひろくっていいねえ。」
 ほう、おとなもやってるな。
 じてんしゃにのってくる人も
 あるんだね。」
 「ちょっとみていきたいなあ。
 いいでしょう、おとうさん。」



おじさんのうちに、つきました。
 なりどしのかきの、みが、たくさんなっています。

「やあ、まさおさんとおじさんだ。」
 とさけびました。
 ちやうど、みんなのらにでていて
 おばあさんと、いちろうと、あかちゃん
 が、おるすばんなのです。
 まさおは、おばあさんに、ごあいさつを
 しました。

いちろうが、うしごやに いこうと さそいます。



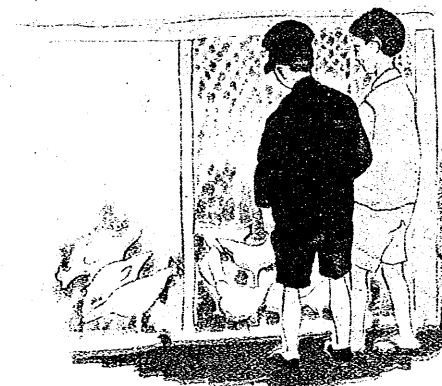
「この はる、かった うしなんだ
まだ ちいさくて、かわいい
目をして いるよ。」

ふたりは うしごやの方へ あるいて
いきました。

となりの ぶたごやでは、ぶたが、
えさを くれるのかと おもって、
さくから はなを つきだして
さわいで います。

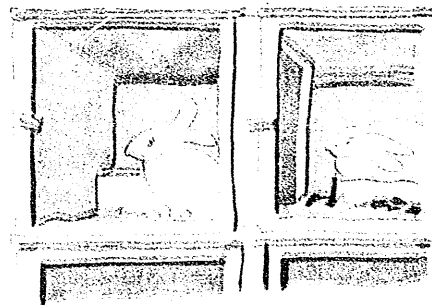
「これが とりごや。あの 大きなのが おやどりで、
あとは、この はる かえったんだよ。
でも みんな たまごを うむよ。うさぎも いるよ。
どこに。」

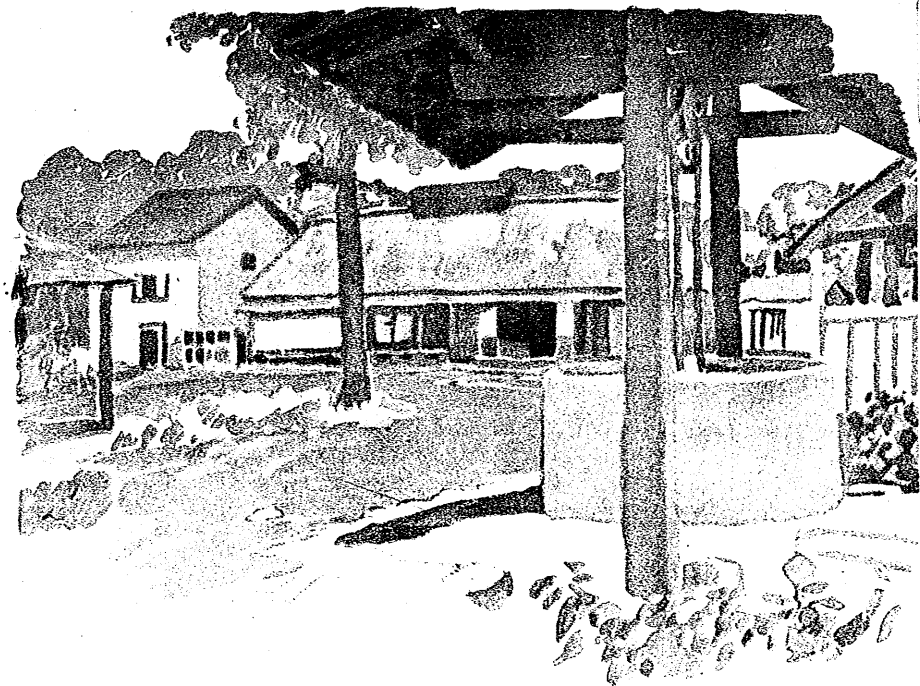
「ほら、あそこ。どどろの、まえさ。」



ふたりは うさぎに
くさを たべさせました。
うさぎは、長い みみを ふりふり まさおを
みます。

かわいい あかい 目が、
「まさおさん、いらっしゃい。」
と いって いるようです。





ふたりは、うらの くりばやしへ
いきました。

つやつやした くりが おちて います。

「きょうは もう ひろったから、

あした また いっしょにね。」

いちろうが いいました。

しめった おちばの あいだから、

まさおは きのを とりました。

くりの はの あいだから、

おひさまが まぶしく ひかつて

います。

「まさお。いちろう。」

おばあさんに よばれたので、ふたりは いえに はいりました。

かき・ゆでぐり・おいもなど、おぼんから こぼれそうに、もって あります。

おばあさんは、

「さあ、まさお。たくさん

おさがり。」

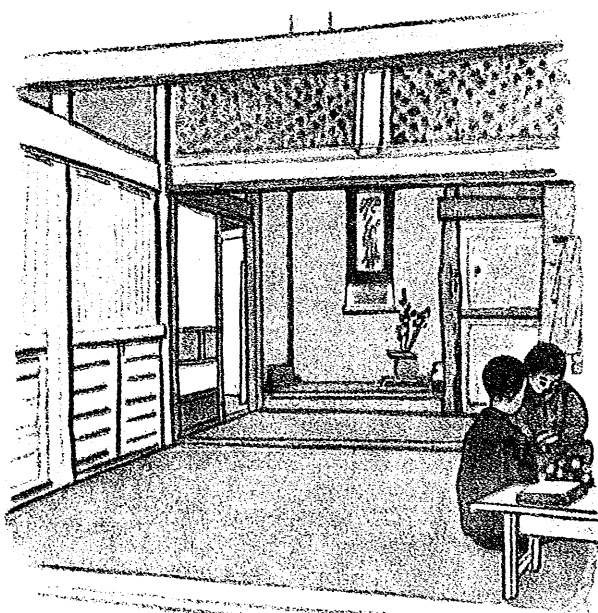
と、すすめて くださいます。

いちろうは、

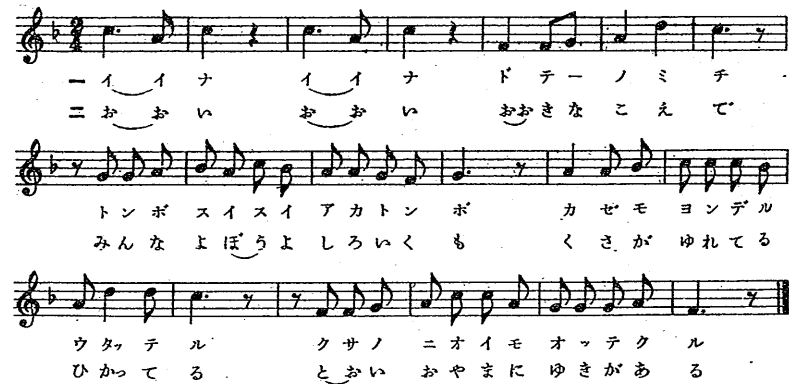
おみやげの ジープを もって、

いえじゅう はしりまわって

います。



どてのうた



おやつの あとで ふたりは
のぎくの さいた どてを
おりました。

こどもが、かわらで あそんで います。

いいな いいな どての みち。
どんぼ すい すい あかどんぼ。
かぜも よんでる うたってる。
くさの においも おってる。

おおい、おおい。 おおきな こえで、
みんな よぼうよしろいくも。
くさが ゆれてる ひかッてる。
とおい おやまに ゆきがある。



どての ちここの はたけでは

おじさんたちが おいもほりです。

まさおの おとうさんも おてつたいです。

かぜに のって、おとうさんたちの こえが

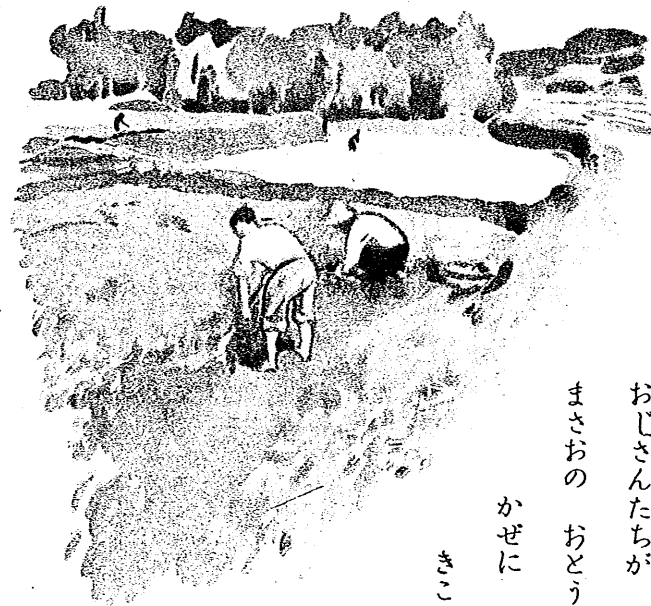
きこえて きます。

あたりの たんぼでは

きいろい いねの ほが

おもそうに

くびを たれて います。



おひるごはんの あと、おじさんと

おとうさんは、大きな ばけつで、

おふろの みずくみです。

ガラガラ おとの する いどです。

「一ばい、二ばい。」

おじさんは、大きな こえて

かぞえます。

十四はいて いっぱいに なりました。

おばあさんは、さっそく 火を

たきつけました。

いちろうと まさおは、かれえだや まきを はこびました。

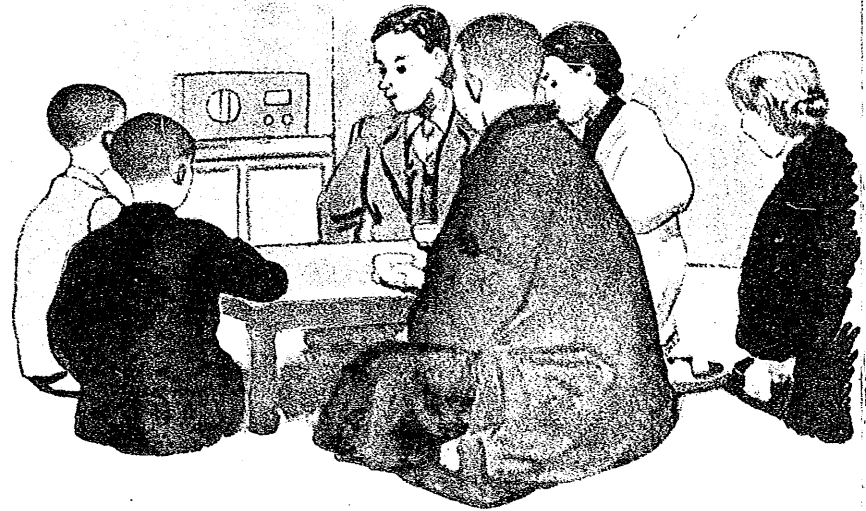




みんな おふろが すみました。
 いろりの そばの タゴはんです。
 たきが、ちよろちよろ
 もえて います。
 おとうさんが、おおきな こえて、
 まちの はなしを なさいます。
 むらの はなしは、おじさんと
 おばあさんが なさいます。
 まさおは、うどんが おいしいので
 おかわりを しました。

「じゃんけんぽんよ。」
 ふたりは、おふろの 火の ばんを
 しながら、いしけりを
 して います。
 あたりが ぐらく なりました。
 いちろうと まさおは、あそびを やめて
 にわの そうじを はじめました。
 だいどころでは
 おばあさんと おばさんが、うどんを つくって いられます。
 もう 日が しずみます。
 ふりかえると、うらの くりばやしが、ぼんやり けむって みえました。

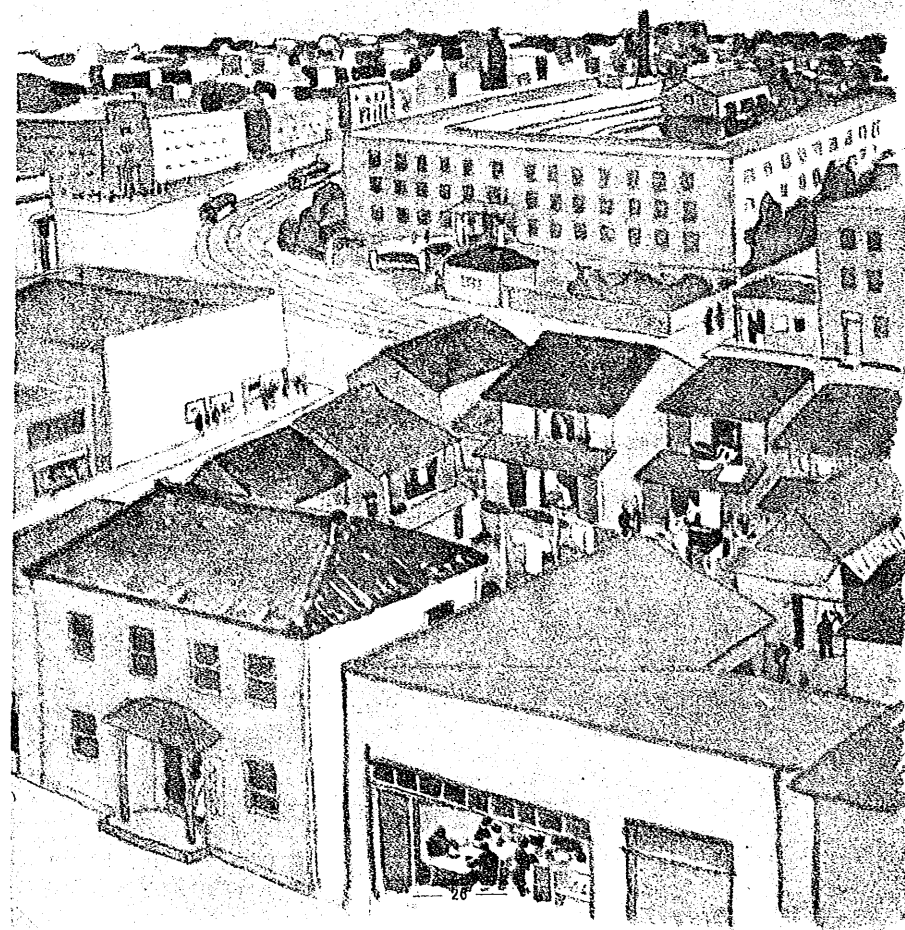




たのしい ごはんが すみました。
 みんなで ラジオを かこみます。
 「みちこも きつと きいてるね」
 と、まさおは おとうさんに いいました。
 となりの 人が、
 おふろに はいりに きたので、
 まさおは ねまに いきました。
 おおきな はしら、くらい てんじよう、
 なんだか、がらんと して
 さびしい へやです。
 まさおは、ねどこに はいってから、
 「おやすみなさい、おかあさん」
 と、ちいさな こえて いいました。

いなかの 朝は しずかです。
 どこかで、
 とりが なくて います。
 まさおと いちろうは、くりを
 たくさん ひろいました。
 「さようなら」
 「ごきげんよう」
 あさごはんを たべて、
 おじさんの うちを でした。
 こんどは、べつの えきに でのるです。
 とちゅうで、小さな どうげを こえました。
 とおくの たんぼが ひかって みえます。





でんしゃの なかには、
あかちゃんを おんぶして、にもつを
もった 女の 人が、ずいぶん
いました。
きつと、まちに いる しりあいの
人を たずねるのだらうね。
かいものに いく 人も
いる ことだらう。」
と、おとうさんが おっしゃいました。
まさおの せなかの 小さな リックサック
にも かきと くりが、いっぱい つまって
います。



「ただいま」

「おかえりなさい」

みちこが とんで でて きました。

ちようど、おひるを すこし すぎた

ところです。

みちこは、

かきや くりを りょうてに もって、

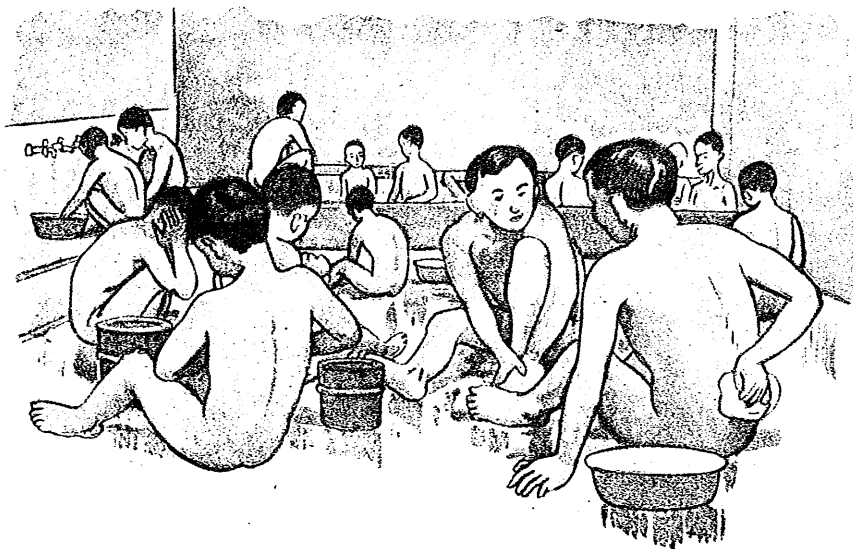
「おみやげ、おみやげ」

と はしゃぎ まわります

まさおは、さっそく、

おばあさんたちに おれいの てがみを

かきました。



まさおは、てがみを かいて

しまってから おとうさんと

ふろやに いきました。

きようは、 こどもたちも

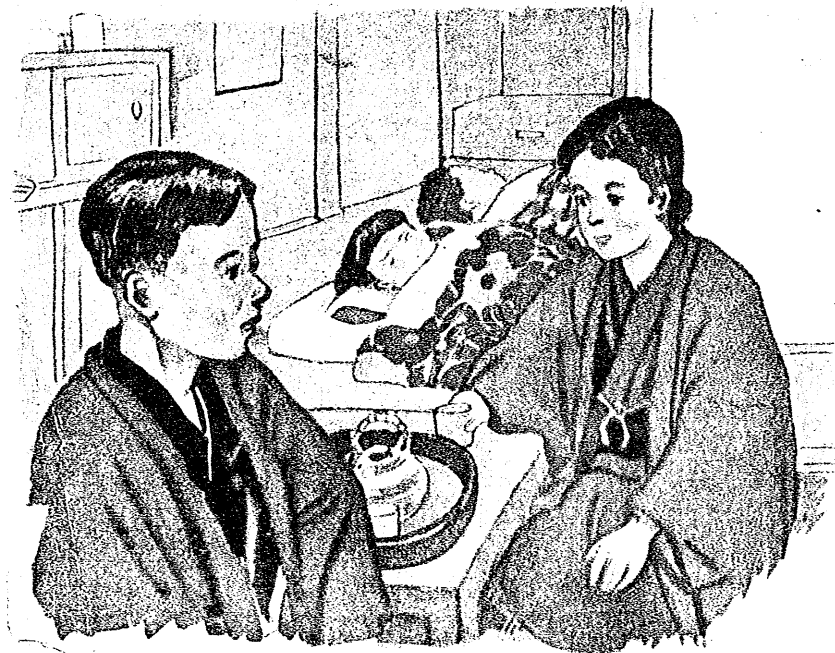
みんな おとなしく しているの、

きもちよく はいりました。

つかれが すっかり

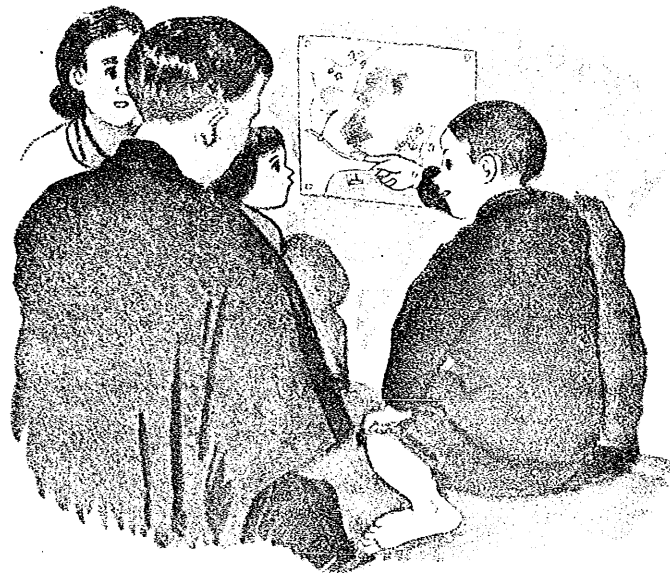
ぬけたような きが します。

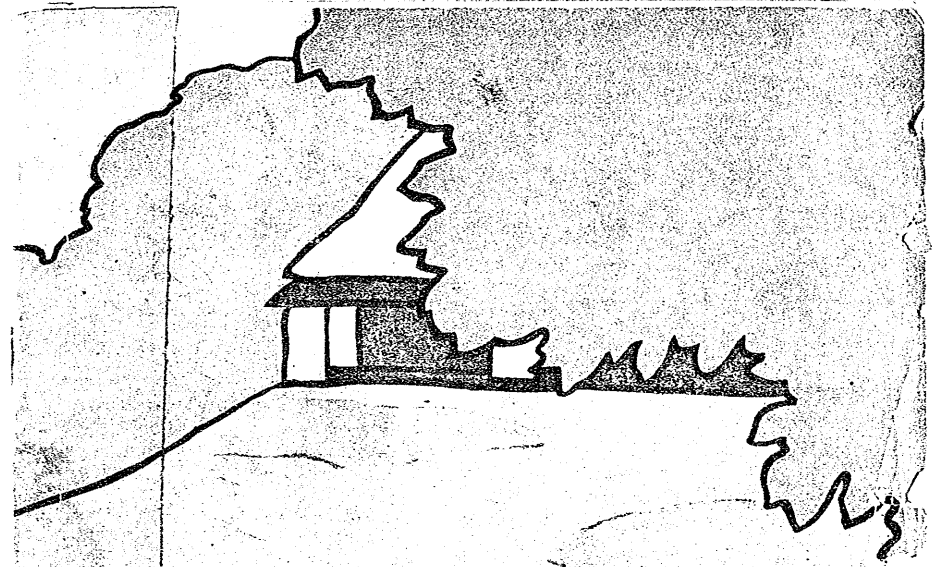




ボン、ボン、ボン。
 とけいが ここのつ になりました。
 まさおと みちこは、
 ぐっすり ねむって います。
 「まさおも なかなか しっかり して
 きたなあ。」
 「みちこも おとなしく おるすいを
 しましたよ。」
 おとうさんと おかあさんは
 うれしそうです。
 おかあさんは、ふたりの ねがおを
 そつと のぞき こみました。
 そとでは、むしが しきりに ないて
 います。

みちこに おはなし する ために、
 まさおは ちずを かきました。
 みんな そろった タはんの とき、
 その ちずを かべに はりました。
 「よく おぼえて いたね。」
 「まあ、よく できたこと。」
 おとうさんと おかあさんに ほめられて、
 まさおは うれしく になりました。
 すっかり しあげて
 学校に もって いく つもりです。





社会科 小学校第二学年用
 書きおのたひ
 Approved by Ministry of Education
 (Date Dec. 6, 1949)

昭和24年 2月12日 国 立 印 行
 昭和24年10月12日 再 刷 印 行
 昭和24年11月22日 再 刷 印 行
 (昭和24年11月12日 大蔵省印刷局)

文 部 省
 東京国立印刷局印刷(丁部入五七番地)
 東京印刷株式会社 全 社
 代 表 者 長 野 一
 東京都会区第二印刷一第地
 印刷局 株式会社 全 社
 代 表 者 山田三郎太
 印刷局 東京印刷株式会社

¥ 19. 70